

取材日：2019年3月18日



湘南東部医療圏

## 簡潔・便利な診療支援ツールとマニュアルが実現する地域連携と糖尿病重症化予防。

### Point of View

- ① 糖尿病に関する地域連携クリティカルパスを導入するため、行政と協働し、地域の病院、医師会などの代表者から成る『茅ヶ崎寒川地区糖尿病地域連携クリティカルパス推進会議』を結成
- ② 茅ヶ崎寒川地区糖尿病地域連携クリティカルパス推進会議に、診療、薬剤、看護、栄養の4つの分科会を配置し、簡潔で便利な診療支援ツールの開発や啓発活動などに取り組む
- ③ 糖尿病性腎症重症化予防推進のために、患者の療養指導上、最低限守ってほしい内容に的を絞ったA4サイズ2ページの非専門医などに向けたマニュアルを分科会が作成

茅ヶ崎市立病院  
代謝内分泌内科診療部長

佐藤 忍先生

林糖尿病内科クリニック  
院長

林 勉先生

茅ヶ崎市立病院  
薬局

伊藤 篤志先生

茅ヶ崎市立病院  
栄養科科長

井堀 園美氏

### 県のモデルケースとして行政と二人三脚で推進会議を結成

神奈川県茅ヶ崎市と同市に隣接する寒川町では、『茅ヶ崎寒川地区糖尿病地域連携クリティカルパス推進会議』（以下、推進会議）が、さまざまな施策を繰り出し、地域の糖尿

病医療をリードしている。

推進会議委員長を務める茅ヶ崎市立病院代謝内分泌内科診療部長の佐藤先生が推進会議について話す。「2011年、神奈川県の医療担当者から私に、『糖尿病の合併症による重症化を防ぐため、糖尿病地域連携クリティカルパス（以下、地域連携パ

ス）の立ち上げに取り組む地区を探している』との話がありました。

実は、第5次（2008～2012年度）神奈川県保健医療計画の中で、地域連携パスを活用した糖尿病における地域医療連携の推進が挙げられており、県内でモデルケースをつくりたいとの考えがあったようです。



左から佐藤先生、林先生、伊藤先生、井堀氏

難しい仕事になると思いましたが地域医療に貢献したいとの思いで手を挙げることにしました。その際、活動の拠点となる協議会（現・推進会議）<sup>〔1〕</sup>の設立を提案したところ、設置が決まりました」（佐藤先生）

そして、佐藤先生は県と二人三脚で行動を開始する。まずは、県の茅ヶ崎保健福祉事務所（保健所）<sup>〔2〕</sup>の所長とともに関係先を行脚し、推進会議への参加と協力を求めた。「茅ヶ崎寒川地区の5病院、茅ヶ崎医師会、茅ヶ崎歯科医師会、茅ヶ崎寒川薬剤師会、神奈川県看護協会、神奈川県栄養士会を訪ねて協力を要請したところ、いずれも快く引き受けてくださいました。たぶん行政を巻き込んだ取り組みだったからでしょう」（佐藤先生）

早速、各団体の代表者が推進会議で顔合わせをしたが、代表者が集うだけでは、実際に地域連携パスを運用する多職種の横の関係を深められない。そう考えた佐藤先生は、推進会議の下に、医師、薬剤師、看護師、栄養士が各々に集まる「診療」、「薬剤」、「看護」、「栄養」の4つの分科会を設置、各職種が勤務先の壁を越えて連携できるようにした。

このようにして、現在にいたる推進会議の組織（**〔資料1〕**）がかたちづくられたのである。

## いち早く糖尿病連携手帳に注目し連携しやすい環境を

さて、推進会議でつくった肝心の地域連携パスは、どのようなものなのか。「まず、着目したのは、糖尿病連携手帳です。医療連携をするうえでの情報共有ツールとして最適だと思います」（佐藤先生）

周知のように糖尿病連携手帳は、

日本糖尿病協会が2010年から発行を始めた、病診と患者で検査データなどを共有する手帳だ。今ほど一般的になる以前、すぐさまこの手帳に目をつけたのは、先進的な取り組みであったと言える。

続いて推進会議では、病診間で使う糖尿病患者診療情報提供書の統一版を作成した。「紹介・逆紹介を行う双方の負担を軽減し連携しやすくするため、行ってほしい検査や治療の項目のチェックボックスに印をつけるだけといった、非常に簡単な書式としました」（佐藤先生）

推進会議では、糖尿病連携手帳とこの糖尿病患者診療情報提供書のセットの活用を地域連携パスの基礎と位置づけ、推進会議発足の翌2012年1月から稼働を開始したのである。

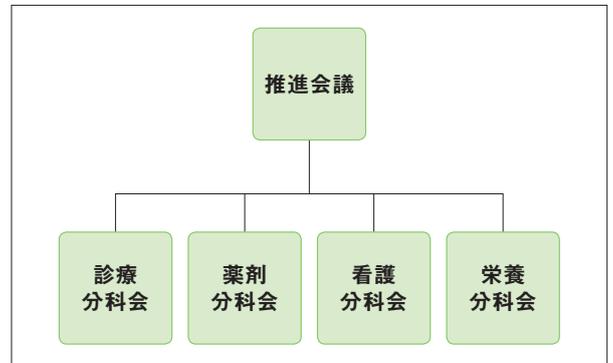
## “共通の言語”で話せるようガイドブックを編集し発行

推進会議の活動は、地域連携パスの運用だけにとどまらない。「連携で大切なのは、医師はもちろん、多職種を含めた医療者同士が、糖尿病の治療や療養指導において、“共通の言語”を持つことです。そのため2012年3月に『湘南糖尿病ネットワークガイドブック茅ヶ崎寒川版』（以下、ガイドブック）を発行しました」（佐藤先生）

それまでは、各医療機関が糖尿病に関する資料を各々で用意し、治療や患者指導を行っていた。しかし、これでは患者を紹介・逆紹介した際

【資料1】

### 推進会議の組織図



出典：佐藤先生提供資料

に言葉の解釈で間違いが生じ、混乱や事故が起きる恐れがある。そこで推進会議メンバーの5病院を中心に診療所の医師も加わってガイドブックを編集・発行したのだ。

「ガイドブックは、病院用ガイドや診療所用ガイドなどのパートで構成されており、約250ページの大作となりました」（佐藤先生）

さらに2013年からは、患者を対象とした『診療支援ツール』を順次、作成。

「診療支援ツールは、各分科会のメンバーが勤務先に関係なく連携してつくりました。

患者さんが気をつけるべきポイントをまとめたA4サイズのプラスチックカードで、たとえば、栄養分科会の診療支援ツール（**〔資料2〕**）は、食事の組み合わせ方がイラスト入りで解説されていて、ランチョンマットとしても使えるようになっています」（佐藤先生）

なお、患者向けには年4回4ページの『糖尿病・地域連携ニュース』（**〔資料3〕**）も発行している。こちらも、各分科会が、1年に1回持ちまわりで作成しているという。この作業を通して、地域の各職種の連携関係が深まっているに違いない。

特に患者向けの各分科会の活動は、患者の啓発にもなり、医療連携も促せる。まさに、一石二鳥の効果があると言える。

## 4つの分科会がそれぞれに フットワーク良く活動

既述したように、各分科会は、推進会議の打ち出した方針を推し進めるうえで重要な役割を担う。林糖尿病内科クリニック院長の林先生は、診療分科会のリーダー的存在だ。「歯周病は、糖尿病の増悪因子ですが、かかりつけ医の先生は日常の診療が忙しく、歯周病にまで気を配れないケースが少なくありません。ですから、歯周病に関する発信には特に力を入れています。

また、当地域の地域連携パスでは糖尿病連携手帳の活用が欠かせません。単に『糖尿病連携手帳を使いましょう』と呼びかけるだけでなく、同手帳のメリットがわかるようなポスターを作成するなどしています」(林先生)

茅ヶ崎市立病院薬局の伊藤先生は薬剤分科会に参加する。

「地域の薬剤師を対象とした研修会、実際の病院のカルテをもとに佐藤先生に症例の解説をしていただき薬剤師が服薬指導について学ぶミニカンファレンスを、それぞれ年1～2回開催しています」(伊藤先生)

同じく茅ヶ崎市立病院の栄養科科長の井堀氏も、栄養分科会のメンバーだ。

「栄養分科会では、診療所など栄養士がいない医療機関でも標準的な栄養指導を実施できるよう、冊子などをつくっています。毎年、より良い内容をめざして、改訂を重ねています」(井堀氏)

看護分科会では、病院看護師や糖

【資料2】

## 食事療法に関する診療支援ツール



出典：佐藤先生提供資料

尿病患者を多く診る診療所に勤める看護師が集まり、インスリン治療を拒否する高齢者など難しい症例について検討会を実施、ガイドブックの改訂ごとに検討した内容を反映しているという。

## わずかA4サイズ2ページの 厳選されたマニュアル

推進会議では、毎年、年間の活動テーマを決めている。2018年度のテーマは、国も力を入れる糖尿病性腎症重症化予防。佐藤先生が成果を語ってくれる。

「まず、国の打ち出した糖尿病性腎症重症化予防プログラムにのっとりながら、推進会議で腎症重症化予防パスを作成しました。

行政が、特定健診のデータなどを用いて治療中断患者を拾い上げ、保健師が受診勧奨を行って受診につなぎ、その後は治療中断者が生じない

ように医療機関が連携しながら、きめ細かく患者さんをフォローしていくというものです」(佐藤先生)

糖尿病性腎症重症化予防でも注目されるのが、分科会の活動である。「かかりつけ医の先生方などに使っていただく『糖尿病重症化予防マニュアル』(以下、マニュアル)を各分科会で作成しました。各職種が、『糖尿病治療上、最低限これだけは守ってほしい』との視点に立って、わずかA4サイズ2ページ分にまとめています。

腎症重症化予防パス、マニュアルともに、今年の秋以降に医師会や歯科医師会、保険薬局へ配布して試験運用を始め、来年早々にも反応を調査する計画です」(佐藤先生)

内容を厳選したマニュアルをつくる過程では、何を残すべきか大いに苦心したはず。診療分科会の林先生が言う。

「議論の結果、糖尿病を診るかかり

つけ医の先生方は、HbA1c値や血糖値測定にくらべて尿検査はあまり実施されていないことがわかりました。腎症重症化予防には、定期的な尿検査が重要である点を意識してもらえよう、検査結果から判断できる腎臓専門医への紹介基準を掲載しました」(林先生)

薬剤分科会では、多様な経口血糖降下薬の作用や副作用の一覧表などを掲載したほか、地域性に配慮した注意事項も盛り込んだ。

「茅ヶ崎市は海に面しているため、津波のような大きな災害に襲われる可能性があります。したがって、災害時には糖尿病連携手帳やお薬手帳は貴重な情報源となるので、患者さんには、いつもまとめて管理するよう指導していただきたい点にも触れ

ています」(伊藤先生)

また、栄養分科会のマニュアルはたいへん実践的である。

「腎症重症化予防には、塩分摂取量のコントロールが必須ですが、患者さんご自分で気づかぬうちに過剰摂取しているケースがしばしば見られます。そこで、いわゆる減塩タイプの食品に代えると、どれだけ塩分が減らせるのかが一目瞭然の表を作成しました」(井堀氏)

### 茅ヶ崎寒川地区の取り組みをいつかは神奈川県モデルに

さて、メンバーの方々は、これからの目標をどのように見据えているのか。

「地域連携の基礎となる糖尿病連携手帳の利用の促進が目標です。かかりつけ医の先生方に、もっと使っていただく方法を考えなければいけないと思っています」(林先生)

「薬剤分科会の活動を通して、病院と保険薬局が協働して重症化を予防できるようにするとともに、分科会が開催する研修会の内容のさらなる充実を模索していくつもりです」(伊藤先生)

「糖尿病治療で大切なのは、早期発見、早期介入です。栄養士もできるだけ早く介入していきたいと思っています」(井堀氏)

「茅ヶ崎寒川地区は

高齢化が進行しているので、推進会議の2019年度の活動テーマは、『高齢者糖尿病』です。今まで推進会議が培ってきた経験を生かし、訪問看護ステーションなど在宅医療にかかわる看護師が使いやすい新たなツールやマニュアルづくりを考えています」(佐藤先生)

佐藤先生は、中・長期的な目標も話してくれた。

「茅ヶ崎寒川地区の活動を、神奈川県標準モデルにできればうれしいですね。冒頭で申し上げたとおり、当地区の取り組みは、県と二人三脚で始めたので、ぜひ恩返しがしたいです」(佐藤先生)

地域連携パスの運用やスムーズな地域連携に悩んでいる地域は、少なくないと言われる。最後に佐藤先生に、地域連携パスを成功に導く秘訣を聞いた。

「我々の会議に参加して下さっている方々は、ほぼ手弁当です。地域でボランティア精神のある人材を探し出し、彼らを中心に連携のベースとなる組織を確立できれば、さまざまな挑戦ができるでしょう。

ただ、そうしたとしても、効果が出るには時間がかかる。継続するエネルギーを持ち続けることが、地域連携パス構築のカギだと考えます」(佐藤先生)

【資料3】

糖尿病・地域連携ニュース

**糖尿病・地域連携ニュース**  
No.8 2016年10月発行  
茅ヶ崎寒川地区 糖尿病地域連携クリティカルパス協議会

茅ヶ崎・寒川地区の病院や関係団体から構成される「茅ヶ崎寒川地区糖尿病地域連携クリティカルパス協議会」では、地域の皆さんが糖尿病に関心を持ち、その情報を手軽に得られるように、「糖尿病・地域連携ニュース」を発行しています。糖尿病にまつわる最新の情報や是非知っていただきたいことを中心に掲載しています。今回は、看護分科会から、糖尿病による身体への影響などについてお知らせします。

**歯周病について**

糖尿病と歯周病には密接な関係があります。糖尿病の人が歯周病にかかる割合は糖尿病でない人に比べて高いと言われ、歯周病により歯肉の炎症が起こると、その炎症からインスリンの働きを抑える物質が出て全身の血糖コントロールに悪い影響が出る事がわかっています。

1) 歯周病とは  
歯を支える組織に歯周病を引き起こす細菌が付着して菌は歯が抜け落ちてしまう病気です。

2) 歯周病の原因  
①口の中の300種類以上の細菌  
②細菌の固まりのプラーク  
③歯石

3) 喫煙のリスク  
ヘビースモーカー(1日30本以上)は喫煙しない人に比べ歯周病の進行が20年早く重症化しやすいという特徴があります。

4) ホームケア(家庭でできる予防)  
①歯磨き(ブラッシング)  
②フロスの使用  
③適切な食生活  
④定期的な検診と専門的ケア

**健康な歯を獲す為に、正しいブラッシングを覚えて、毎日歯磨きをして、歯の表面を歯石のない清潔な状態にすることが大切です。**

**喫煙が糖尿病に与える影響**

タバコには血管を収縮する作用があるため、体に多くの悪影響を及ぼします。

1) 喫煙の悪影響  
①血管の悪化  
②血管壁を厚くして動脈硬化を進行  
③喫煙で動脈硬化の進行が進む

2) 禁煙するためには  
①喫煙の行動習慣を変える  
②煙草の有害成分を減らす  
③禁煙薬の活用  
④禁煙外来

**タバコの作用が、心筋梗塞や足の壊疽などの症状を進行し、肺の感染症、歯周病なども引き起こしやすくなります。**

出典：佐藤先生提供資料

茅ヶ崎市立病院

〒253-0042  
神奈川県茅ヶ崎市本村5-15-1  
TEL：0467-52-1111

林糖尿病内科クリニック

〒253-0044  
神奈川県茅ヶ崎市新栄町3-2  
Abeasa Medical 2F  
TEL：0467-84-0884